

の参加者が米国および海外からあり、当初は米国フィラデルフィアで開催予定であった。しかし、今回は新型コロナウイルス感染症拡大の影響でオンラインでの開催となった。期間は2020年11月4日から7日（現地時間）であり、大会テーマは“Turning 75: Why Age Matters”であった。ストーリーミングによるシンポジウム、オンディマンドによる論文やポスター報告発表セッションなどが設けられ、参加者は関心のあるセッションにアクセスして参加する方法が採られた。なお、参加は同学会の会員以外でも可能であり、オンラインで参加申し込み、ID等の設定、参加料の支払いなどの手続きを行うことで、大会事務局からurlなどの情報がメールで送られてきた。

時差の関係でオンディマンド報告、ポスターセッションを主に参加したが、老年学に関する幅広い分野から報告が行われ、筆者は介護サービス、介護者に関するおよそ30近くの報告にアクセスした。報告は米国だけでなく、わが国を含む諸外国からもあり、台湾からの報告もあった。さらに、AARP（米国の高齢者団体）などの協賛団体によるオンラインでの情報発信もあり、こちらでも貴重な情報を入手できた。

海外での学会参加は、その場所が醸し出す雰囲気の中で議論を行うことで、学術的な知見を積み、研究ネットワークを充実される貴重な機会である。よって、参集での開催、参加が最も望ましい。一方で、日程と用務の関係で断念する場合も多く、オンライン開催はこうした問題を解消できる。ダウンロードで来た報告資料をじっくりと検討できる。しかし、オンラインでも同時に参加できるセッションに限られること、時差の問題など、オンライン参加特有の課題も感じた。

なお、2021年の大会は米国アリゾナ州フェニックスで11月10日から14日に開催予定である。

（小島克久 記）

第25回 静岡健康・長寿学術フォーラム

2020年11月13日（金）～14日（土）に、静岡県、静岡大学、浜松医科大学、静岡県立大学の4団体が共催する静岡健康・長寿学術フォーラムが、静岡県男女共同参画センター「あざれあ」とオンラインとのハイブリッド形式で開催された。第25回目となる今回のテーマは「令和時代の健康・長寿」で、社会健康医学、工学・光産業、人材に関する幅広い分野のセッションが行われた。

そのうち学術セッションIII「人口減少社会と健康・長寿」では、高畑幸 静岡県立大学国際関係学部教授の座長の元、筆者が「日本・アジアの長寿化と介護需要の増加」と題する報告を、静岡県立大学短期大学部の天野ゆかり講師が「静岡県における外国人介護人材の受け入れと介護福祉士資格取得に向けた支援」と題する報告を行った。高齢化に応じた介護ケア、介護人材の需要増加に、外国人の活用も含めどのように対応するか、マクロ・ミクロの観点から議論された。

静岡県では、官民学一体で「ふじのくにEPAネットワーク」を構築し、外国人介護人材の受け入れを円滑化させている。新型コロナウイルス感染症により新規の受け入れは停滞しているが、すでに日本にいる人材がどう活躍できるのか、またいずれは帰る人がいても好循環することが重要、とまとめられた。

（林 玲子 記）

日本人口学会第72回大会

日本人口学会第72回大会は、当初2020年6月に開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に対応するためオンライン開催に変更され、2020年11月14日（土）～11月15日（日）に埼玉県立大学

を開催校・共催として開催された。大会プログラムは以下の通りである。第1日の学会賞授与式では小西祥子会員（優秀論文賞）、森田朗会員／国立社会保障・人口問題研究所（普及奨励賞）、丸山洋平会員（普及奨励賞）、石川義孝会員（学会特別賞）にそれぞれの賞が授与され、受賞者からあいさつがあった。

第1日 2020年11月14日（土）

テーマセッション「小地域データを用いた人口分析とその応用」

組織者：中川雅貴（国立社会保障・人口問題研究所）

座長：井上孝（青山学院大学）

討論者：中川雅貴（国立社会保障・人口問題研究所）

- 1) 貴志匡博（国立社会保障・人口問題研究所）「小地域における住基人口と国調人口」
- 2) 長谷川普一（新潟市都市政策部 GIS センター）「境域を用いて作成した縦断情報について」
- 3) 井上希（国立社会保障・人口問題研究所）「小地域別人口統計を用いた過疎地域研究」

自由論題 A-1「数理・統計」

座長：大泉嶺（国立社会保障・人口問題研究所）・稲葉寿（東京大学）

- 1) 古家士朗（ウィスコンシン大学メディソン校・院）・フレッチャージェイソン（ウィスコンシン大学メディソン校）・呂琮石（ウィスコンシン大学メディソン校）「同時多発テロに対する反応の遺伝子レベルにおける異質性」
- 2) 衣笠智子（神戸大学）・安田公治（青森公立大学・神戸大学）「成人寿命の教育への影響に関する計量的研究」
- 3) 西村教子（公立鳥取環境大学）「危険回避と時間選好が男性の晩婚化・未婚化にもたらす影響」
- 4) 原俊彦（札幌市立大学）「持続可能な人口の原理：成長の限界と人口波動モデル」
- 5) 池周一郎（帝京大学）「なぜブルターニュ半島の出生力低下が遅れたのか—反応拡散説のみがそれを説明する—」

自由論題 A-2「歴史人口」

座長：平井晶子（神戸大学）・村越一哲（駿河台大学）

- 1) 大塚友美（日本大学）「大日本主義時代の人口政策の帰結」
- 2) 廣嶋清志（島根大学）「戸籍人口統計からの分離—国勢調査の開始」
- 3) 高橋美由紀（立正大学）・高島正憲（関西学院大学）「明治期民勢地図にあらわれた社会問題：府県別死産統計の分析」
- 4) 津谷典子（慶應義塾大学）・黒須里美（麗澤大学）「世帯の社会経済的地位と死亡：近世東北3農村の事例」
- 5) 長岡篤（麗澤大学）・黒須里美（麗澤大学）・高橋美由紀（立正大学）「近世東北における陸奥国二本松藩町村と越後国との人口移動」
- 6) 村山聡（香川大学）・グルーリヒョゼフ（Josef Grulich）（南ボヘミア大学）「18世紀後半の東欧・南ボヘミアにおける冷夏と不作の環境史：再版農奴制の人口学的再検討」

企画セッション①「100周年を迎えた国勢調査—歴史と展望—」

組織者：川崎茂（日本大学）

座 長：川崎茂（日本大学）

討論者：小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）

- 1) 川崎茂（日本大学）「人口学の発展における国勢調査の歴史的役割」
- 2) 大崎敬子（常磐大学）「世界における人口センサスの動向」
- 3) 阿向泰二郎（総務省統計局）「2020年国勢調査の実施について」
- 4) 加藤久和（明治大学）「経済分析の観点からみた国勢調査の課題と展望」
- 5) 井上孝（青山学院大学）「地域分析の観点からみた国勢調査の課題と展望」
- 6) 小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）「地域人口分析における国勢調査データの活用例」

自由論題 B-1「アジア研究」

座 長：松浦司（中央大学）・衣笠智子（神戸大学）

- 1) 翁康容 (Weng Kangjung) (臺灣國立中正大學)・楊靜利 (臺灣國立中山大學)・任軒立 (臺灣國立中山大學) "How does Education Matter? Relative and Moderating Effect of Education on the Division of Domestic Work in Taiwan"
- 2) 影山純二 (Junji Kageyama) (明海大学) "Gender Preferences for Children, Fertility Behavior, and Happiness: A Taiwan–Japan Comparison"
- 3) 梁凌詩ナンシー (Leung Ling Sze Nancy) (東洋大学) "The Change of Social and Economic Factors of the Lowest-low Fertility in Hong Kong: A comparative study between 1980s-1990s and 2000s-2010s"
- 4) 可部繁三郎（日本経済新聞社）「台湾における大学院卒者の家族形成」
- 5) 西川由比子（城西大学）「インドにおける人口ボーナス期の就業構造変化」

第2日 2020年11月15日（日）

企画セッション②「生物人口学理論の現況報告—理論研究からデータ解析まで—」

組織者：高田壮則（北海道大学）・大泉嶺（国立社会保障・人口問題研究所）

座 長：高田壮則（北海道大学）

- 1) 高田壮則（北海道大学）「一回繁殖型植物の Evolutionary demography—数理モデル解析とデータベース解析の融合—」
- 2) 大泉嶺（国立社会保障・人口問題研究所）・稲葉寿（東京大学）・高田壮則（北海道大学）「日本の人口減少の数学的構造～地域間移動と出生力差が示す人口動態への定量的影響～」
- 3) 杉山友規（東京大学）「経路積分による個体群動態方程式の解析と系譜木上の状態推定」
- 4) 森田理仁（東京大学）「進化から見たヒトの少子化と繁殖戦略—実証研究のレビューを中心に—」

自由論題 C-1「地域」

座 長：原俊彦（札幌市立大学）・萩原潤（宮城大学）

- 1) 中川雅貴（国立社会保障・人口問題研究所）・千年よしみ（国立社会保障・人口問題研究所）「成人子の居住地移動と親子の居住関係および居住距離—非大都市圏へのUターン移動との関連を中心に—」
- 2) 平井晶子（神戸大学）「外国人住民の結婚と出生—『兵庫県豊岡市の外国人住民に関する調査研究』を用いて—」
- 3) 菅桂太（国立社会保障・人口問題研究所）「戦後わが国における長寿化，晩婚・未婚化と就業パ

ターンの地域格差」

- 4) 冬月律 (麗澤大学)「過疎地神社と寺院の現状と課題—宗教団体の基幹調査から—」

自由論題 C-2「家族と性」

座長：丸山洋平 (札幌市立大学)・岩澤美帆 (国立社会保障・人口問題研究所)

- 1) 藤野敦子 (京都産業大学)「日本型雇用と家族：転勤による単身赴任は夫婦関係、子供数に影響を与えているのか」
- 2) 吉田千鶴 (関東学院大学)「日本の夫婦の生活時間配分と子ども」
- 3) 守泉理恵 (国立社会保障・人口問題研究所)「日本における無子志向の未婚男性に関する分析」
- 4) 小島宏 (早稲田大学)「近年の日本における婚前同棲経験の関連要因」
- 5) 森木美恵 (国際基督教大学)・松倉力也 (日本大学)「生殖世代の性的欲求の度合い：性交渉と自慰行為」

自由論題 D-1「人口統計」

座長：中澤港 (神戸大学)・金子隆一 (明治大学)

- 1) 鎌田健司 (国立社会保障・人口問題研究所)・小池司朗 (国立社会保障・人口問題研究所)・菅桂太 (国立社会保障・人口問題研究所)・山内昌和 (早稲田大学)「市区町村別にみた将来の人口増加率の要因分解」
- 2) 石井太 (慶應義塾大学)・林玲子 (国立社会保障・人口問題研究所)・篠原恵美子 (東京大学)・別府志海 (国立社会保障・人口問題研究所)「複合死因間関連分析へのネットワーク分析の応用」
- 3) 別府志海 (国立社会保障・人口問題研究所)・石井太 (慶應義塾大学)・林玲子 (国立社会保障・人口問題研究所)・篠原恵美子 (東京大学)「複合死因データを用いた糖尿病と関連死因の人口学的分析」

自由論題 D-2「アフリカ研究」

座長：小島宏 (早稲田大学)・津谷典子 (慶應義塾大学)

- 1) 林玲子 (国立社会保障・人口問題研究所)「アフリカの高出生と日本 (東アジア) の超低出生：一夫多妻と未婚の比較から」
- 2) 増田研 (長崎大学)「人口急増のアフリカに芽生える少子化希求：エチオピア南部バンナ社会の変化を追って」
- 3) 島村由香 (日本学術振興会特別研究員 PD・国際基督教大学)・松田浩敬 (東京農業大学)「親・子ども間の富の流れと生殖戦略：ルワンダを事例として」
- 4) 大橋慶太 (国連人口基金)「サブサハラ・アフリカの高出生率は幸福か？—希望子ども数と理想子ども数—」

自由論題 D-3「出生」

座長：梅崎昌裕 (東京大学)・森木美恵 (国際基督教大学)

- 1) 松田茂樹 (中京大学)「夫と妻の就業状態が出生に与える効果」
- 2) 逢見憲一 (国立保健医療科学院)「国民優生法・優生保護法下の不妊手術・人工妊娠中絶に関する定量分析」
- 3) 加藤承彦 (国立成育医療研究センター)・三瓶舞紀子 (国立成育医療研究センター)・齊藤和毅

(東京医科歯科大学)「不妊治療(体外受精)を始める女性のこころの状態」

4) 丸山洋平(札幌市立大学)「人口再生産指標に人口移動の影響を反映させる試み」

5) 岩澤美帆(国立社会保障・人口問題研究所)・鈴木貴士(筑波大学・院)「人口・子育て環境の地域性と出生力」

6) 小西祥子(東京大学)「第1子の妊娠待ち時間と第2子出生のタイミング—妊孕力と出生力の関連についての予備的分析—」

(岩澤美帆 記)

カナダ・アルバータ大学高円宮日本研究教育センター ウェビナー

2020年11月24日(火) 日本時間10:30~11:40に、カナダ・アルバータ大学高円宮日本研究教育センター(PTJC)が在カルガリー日本国総領事館との共催で、シリーズ第二回目の「新型コロナと高齢者ケア」と題するウェビナーを開催し、筆者は「日本における新型コロナ感染症の高齢者に対するインパクト」と題する報告を行った。現地カナダの状況はアルバータ大学のジャスニート・パーマー准教授が報告し、日本とカナダの介護システムの違いと、それに応じた新型コロナ感染症の影響、またカナダの中での地域差等について議論された。内容はPTJC WebinarとしてYouTubeで閲覧可能である。

(林 玲子 記)

応用地域学会第34回研究発表大会(オンライン開催)

応用地域学会第34回研究発表大会が、2020年11月28日から29日にかけて開催された。今回は新型コロナウイルス感染症拡大の影響でオンラインでの開催となった。大会では、地域経済、住宅、公共交通などの一般セッションの他、若手研究者や大学院生が報告するEarly Birdセッションが設けられた。これらのセッションは合計で21を数え、48本の報告がエントリーされ、活発な議論が行われた。今回の大会では、セッションごとにZOOMのルームIDとパスワードが設定され、事前に登録された参加者や大会関係者が入室できる方法であった。当研究所からは、小島克久情報調査分析部長が参加し、以下のセッションで座長及び討論者を担当した。参集方式の学会ではセッション終了後の議論が一般的であるが、今回はZOOMのルーム利用時間の関係でこれが難しい面があった。一方で、報告論文を事前にダウンロードできたことなど便利な面もあった。

セッション 地域経済(座長:小島克久)

1. 田北俊昭(山形大学)・Lu Wang(Jiangsu Sheyang Rural Commercial Bank Co. Ltd.)・Yi-Chao Zhang(OGM Co. Ltd.) “Regional Revitalization: Patriot Effect and National Branding in A Smaller Country”

(討論者:片岡光彦(立教大学))

2. 八田達夫(公財)アジア成長研究所)・田村一軌(公財)アジア成長研究所)「大都市への人口移動の決定要因としての地方人口と地域間所得格差」

(討論者:小島克久)

(小島克久 記)